小学校問題行動等防止プログラムに関する実践事例

さぬき市立中央小学校

関連項目：教育活動プラン①、④

異学年とのふれあい活動を通して認め合う場を増やす

目的

本校の児童は、全体的には明るく素直で伸び伸びと学校生活を送っていますが、個別に見ると、規範意識が低く服装や言動の乱れなどが気になる児童が複数名います。そこで、その解決策の一つに自尊感情の育成を掲げ、異学年とのふれあいや人の役に立つ体験を味わわせたいと考えました。

内容

● 校内ＶＳの日の工夫

月１回程度の割合で「鴨庄タイム」（朝の１校時開始前の時間 8:10～8:30）を活用して、異学年での交流活動を位置づけました。ＶＳの日とは、青少年赤十字で言う「ボランタリー･サービス」のことであり、学校のため、地域のため、友達のために何かできることを自分たちで相談して決め、みんなで取り組んでいる活動です。その活動を異学年共同で進めることで、互いを思い合う気持ちや自分を大切にしようとする気持ちを育んでいます。今年度は、１・６年、２・５年、３・４年をペア学年として、ふれあい活動やボランティア活動の共通実践を行いました。今年度の実施日は（５月２３日、６月２７日、９月２６日、１０月２４日、１１月２１日、１月３０日）の６回でした。

● 各ペア学年での実践

各ペア学年の職員や児童が相談し、学校のためになる活動や、互いの交流を深めることのできる活動を行いました。１・６年生は運動会に向けてラジオ体操を練習（６年生が１年生に正しい動きを教えるなど）したり、読み聞かせや室内ゲームを楽しんだりしました。２・５年生は、プランターや校庭の草抜き、ドッジボールやリレー、読み聞かせなどに挑戦しました。３・４年生は、校庭の草抜きや「ろうかピカピカ大作戦」と銘打った校内清掃、ドッジボールなどに取り組みました。いつも上学年が計画・運営するのではなく、後期には、下学年が中心となって活動するような機会も設けました。

● 成就感の共有化と相互の賞賛

活動後には、その様子と互いの感想等を掲示して、一人一人が達成感を味わえるように配慮しています。普段の学習とは異なる活動に取り組んだり、異学年とともに活動したりすることにより、いつもと違う児童が活躍したり、異なる輝きを発したりする場面が見られました。そうした様子を掲示物にすることで、自分自身や他の児童がそうした成就感を共有化したり認め合ったりできたのではないかと思います。特に、下級生から感謝の気持ちを込めたメッセージや能力の高さへの驚きの言葉、上級生から下級生に対仲良くなれた喜びの言葉などは、とてもうれしかったようです。そうした喜びが、次回のＶＳへの意欲にもつながっていきました。来年度も是非続けたい活動の一つです。

成果

こうした取組をすることで、昼休みなどに異学年で過ごす児童の様子が多く見られるようになりました。このことは、学校での活動の幅が広がり、一人一人の活躍の場所、居場所づくりなどにもつながるものだととらえています。校内アンケートでは、人のために働くことができると感じている児童が７９％（前年度比+6P）、クラスの友達が好きだと感じている児童は９４％（前期比+2P）などの成果が見られます。一方、自分のことが好きだと感じている児童は６３％と低く、自分が活躍できたと感じたり、他者から認められたり感謝されたりする体験をさらに充実させていきたいと考えています。